

2017（平成 29）年度 東京大学 入試問題 第 1 問 解答例

- 一 人間の力で困難を解決するはずの科学技術は、自身の問題解決へと新技術の開発を人間に強い続け、奇怪であるということ。
- 二 テクノロジーは、是非の判断とは次元の異なる、行為を可能とする知識であるから、人間に実行の是非の決断を迫るということ。
- 三 いかなる論理であれ基礎づけを欠くという意味で、実践的判断は、その倫理的判断基準を支える概念自体が虚構性をもつから。
- 四 テクノロジーは、困難を解決しつつ新たな問題を作り出す自己展開を本質とし、是非の判断は示さない。したがって、不可能であるがゆえに判断の必要がなかった行為を導く倫理的基準として、人間の生全体に不可避的に関わる新たな虚構の産出を強いるということ。（一二〇字）
- 五 a 耐性      b 救済      c 余儀